**街頭宣伝例（防衛省でも隠ぺい・改ざん）**　２０１８・４・５　鳥取県委員会

　ご町内のみなさん。こちらは日本共産党です。この場所をお借りして訴えをさせていただきます。ご協力よろしくお願いします。

　みなさん、「存在しない」と安倍政権が繰り返してきた公文書がまたもみつかりました。こんどは防衛省です。イラク派兵の際の陸上自衛隊の活動報告（日報）が存在していたというのです。隠ぺい・改ざん体質が、森友・加計疑惑での財務省や文科省だけでなく政権全体に広がっていることを示すもので、「一体どうなっているのか」「なにを隠そうとしていたのか」など、怒りの声があがっています。

　見つかった日報は２００４年から２００６年のイラク派兵期間中につくられた、のべ３７６日分、約１万４千ページにのぼります。防衛省では、昨年、「廃棄した」と説明していた南スーダンPKO（国連平和維持活動）の日報が保管されていたことが発覚し、隠ぺいの責任をとるかたちで当時の稲田朋美防衛大臣や防衛省幹部が辞任しています。

　イラク派兵の日報でも政府は昨年２月、国会での野党の質問に「見つけることができなかった」と答弁していました。防衛省の説明によると、今年一月に防衛省内で、問題の日報が相次いでみつかり、２月２７日には自衛隊トップ（統合幕僚幹部）に伝えられましたが、小野寺防衛大臣や安倍首相にはそれから一カ月以上も報告されませんでした。

　日本共産党の小池晃書記局長は「「政府ぐるみで情報隠し、隠ぺいをやってきたといわれても仕方ない。国政の根本にかかわる問題として引き続き追及していく」（４月２日の記者会見）と強く批判しました。

　防衛省の隠ぺいはこれだけではありません。防衛省がつくった「日米の動的防衛協力について」と題する文書が、なぜか複数存在していたことが明らかになりました。日本共産党の穀田惠二衆院議員の国会追及によるものですが、防衛省が公開した文書以外に、穀田議員が独自に入手したもの、また、情報公開請求で開示された文書の三つ存在していたことが判明したのです。さらに、穀田議員の文書には沖縄の米軍新基地に自衛隊を配置する計画が書かれているのにたいして、別の文書は黒塗り、またはページごと抜け落ちていました。穀田議員は、「意図的に削除したのか。まるで森友問題と同じ改ざんではないか」ときびしく指摘しました。

　みなさん、公文書の改ざんが、なぜ問題なのでしょうか。公文書というのは、国民の「知的共有財産」です。公文書をみて、国民は行政を検証したり、監視したりします。それが書き換えられてしまったら、チェックできなくなり、国民主権も議会制民主主義も成り立たなくなってしまいます。ましてや今回は防衛省です。こんなことをあいまいにしていたら、国民の知らないところで自衛隊が暴走する、そんな事態にもなりかねません。

みなさん。安倍首相を辞めさせて、まともな国にかえようではありませんか。女性も男性も、お年寄りも子どもも、すべての国民が尊厳をもって生きることができる、新しい日本をご一緒につくっていこうではありませんか。

最後に、５月１２日土曜日、午後２時より、米子市公会堂で日本共産党演説会を開催します。弁士は、小池晃書記局長です。ぜひ、お誘いあわせてご参加くださるようお願いして、訴えを終わります。ありがとうございました。